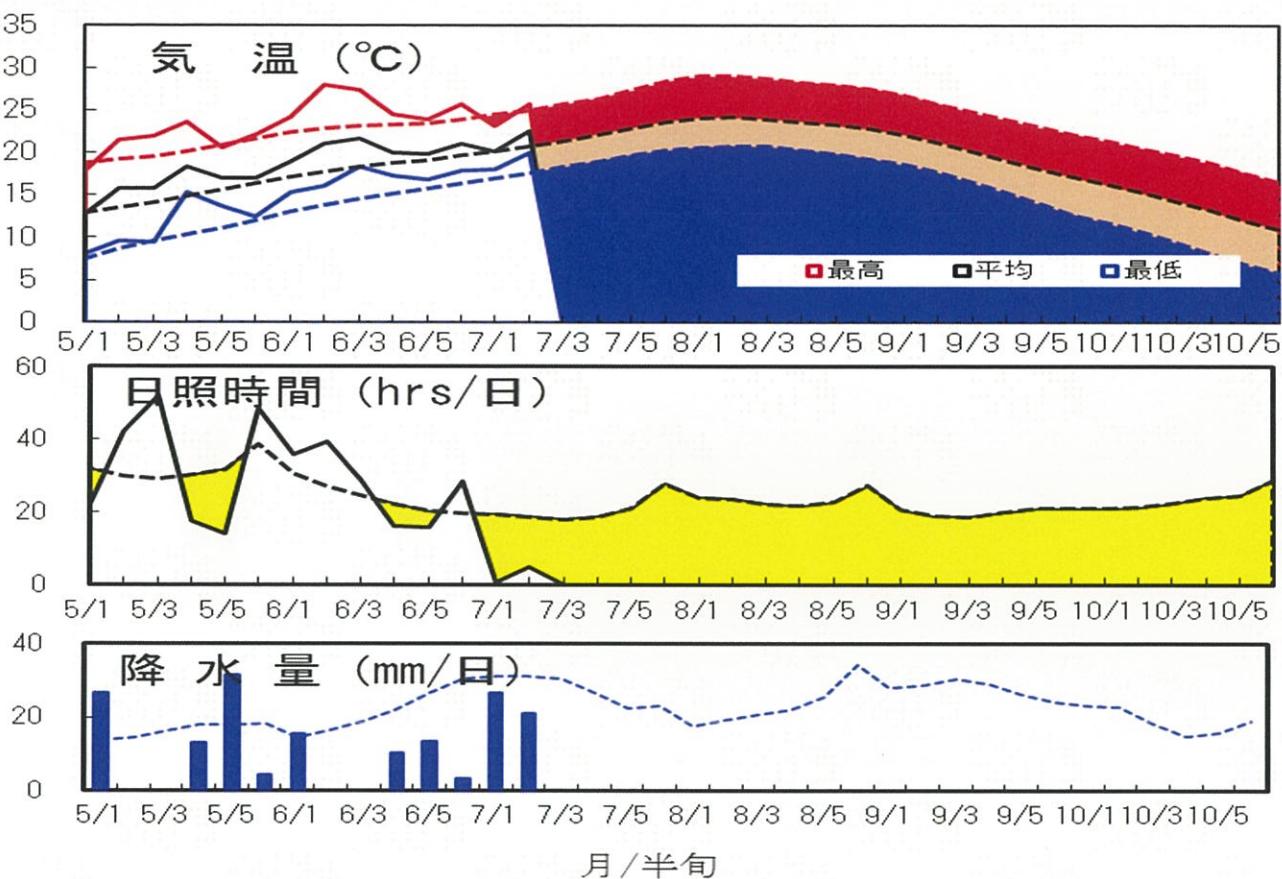


## ～～出芽揃いは良好 適期中耕培土、雑草防除対策を～～

### 1 気象経過



- ・播種後の気象は、6月第1半旬から第3半旬まで高温で推移した。
- ・日照時間は6月第3半旬まで多照で経過し、7月第1半旬は極端な寡照となった。
- ・降水量は6月第1半旬を除いて少雨で経過した。

### 2 生育状況

#### 【宮城県古川農業試験場 作況試験】

##### ① 5月25日播種

- ・出芽日数は平年並～1日早かった。5月第5半旬の多雨により播種時の土壤水分が適度になり、出芽揃いは良好であった。

##### ② 6月15日播種

- ・播種後に降雨があったことから、出芽日数は7日で、出芽揃いは良好であった。

#### 出芽状況

品種名	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽日数		
			本年	前年差	平年差
タンレイ	5/25	6/1	7日	1日遅い	同日
ミヤギシロメ	5/25	6/1	7日	同日	1日早い
ミヤギシロメ	6/15	6/22	7日	—	—

- ・主茎長は、24～27cmで平年より1～4cm、前年より2～3cm短かった。

- ・主茎節数は、7.6～7.9節で平年より0.3～0.4節少なく、前年より0.2～0.5節少なかった。
- ・分枝数は1本に満たず、総節数も平年より少なかった。

#### 生育調査結果（7月5日調査）

播種期	品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)			総節数(節/本)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ ミヤギシロメ	24 27	-2 -3	-4 -1	7.9 7.6	-0.2 -0.5	-0.3 -0.4	0.0 0.3	-0.3 0.0	-1.0 -0.3	8.6 8.6	-1.5 -1.2	-3.0 -1.6



古試:タンレイ (7/5 現在)



古試:ミヤギシロメ (7/5 現在)

### 3 今後の管理

#### 1 干害対策

- ・早生品種では5月下旬に播種をすると7月下旬頃から開花が始まるが、開花時期に乾燥が続く場合は、着莢率を向上させるため、水田機能を生かした畦間かん水などが有効である。

#### 2 湿害対策

- ・排水対策の重要な時期は、①播種直後の発芽期、②根粒着生から開花前までの生育前期と③子実が肥大する生育後期である。
- ・生育後期は、湿害により未熟粒や障害粒が発生するので、登熟を良好にするために排水対策が重要となる。

#### 3 中耕培土

- ・中耕培土は、培土部分からの不定根の発生（養水分吸収力のアップ、不定根に着生する根粒による窒素固定）、倒伏防止、通気性改善、除草効果等、多くの効果が期待できる。
- ・作業の適期は、梅雨の時期に当たるため制限されることも多いが、天候や土壤水分等を見ながら、可能な限り実施する。

#### 4 雜草防除

- ・除草剤（播種後土壤処理剤）の有効期間は、播種後25日前後と言われている。圃場の状況を見ながら、中耕培土と茎葉処理剤を組み合わせて、体系的処理で雑草対策を徹底する。

#### 新技術の紹介【宮城県「普及に移す技術」第94号】

- ◆近年は、帰化雑草等、多くの「難防除雑草」が発生するほ場が見られ、防除に苦心しているほ場が見られる。「広葉雑草」対策としては、これまでに「大豆バサグラン液剤（ベンタゾン塩液剤）」が普及しているが、最近、「アタックショット乳剤（フルチアセットメチル乳剤）」が普及に移された。
- ◆アタックショット乳剤は、大豆バサグラン液剤と比較して、「イヌホオズキ」や「ホソアオゲイトウ」等には効果が高いが、「オオイヌタデ」や「アメリカセンダングサ」等には効果が低い。ほ場に発生する優先雑草を把握したうえで、大豆バサグラン液剤若しくはアタックショット乳剤を選択する（下表参照）。

表 フルチアセットメチル乳剤(F)及びベンタゾン液剤(B)の雑草種別除草効果(平成27~30年)

雑草種	剤	雑草葉齢別除草効果 <sup>注1</sup>						処理時期の目安 (雑草葉齢・草高等)	Bの効果 安定性 <sup>注2</sup>
		子葉	1葉	2葉	3葉	4葉	5葉		
ホノアオ ゲイトウ	F	○	○	○	○	○	○	6葉・10cmまで	
	B	○	○	×	×	×	×	3葉・3cmまで	中
イヌホオズキ	F	○	○	○	○	○	○	10cmまで	
	B	○	○	○	○	○	○	6葉・5cmまで	中
オオイヌタデ	F	○	○△	○△	○×	○×	○	2葉・3cmまで	
	B	○	○	○	○	○	○	15cmまで	高
アメリカ センダングサ	F	×	×	×	×	×	×	—	
	B	○	○	○	○	○	○	20cmまで	高

【宮城県「普及に移す技術」第94号 宮城県農業・園芸総合研究所HPより抜粋】

◆アタックショット乳剤は、大豆に対して褐変等の症状（薬害）が生じる。また、（大豆の）品種間差が確認されているので、使用にあたっては留意されたい。詳しくは、「宮城県農業・園芸総合研究所」HPで確認されたい。本県の奨励品種（平成30年度現在）では、以下のとおり品種間差が確認されている。

薬害リスク	品種	備考
小	ミヤギシロメ、タンレイ、きぬさやか	減収につながる生育抑制を生じた事例がない
小～中	あやこがね	タンレイと比較して、初期の生育抑制が強い場合があるが、開花期の20日後までに回復することが多い
中	タチナガハ、すずほのか	タンレイと比較して、初期の生育抑制が強く、その後の回復が不十分となる場合がある

注) 平成27~30年の場内試験に基づく（表1参照）

処理前後 48 時間の平均気温 : 20.1°C



処理前後 48 時間の平均気温 : 26.4°C



図1 フルチアセットメチル乳剤による薬害症状(処理後3~4日)

注) 品種はタンレイで、大豆2葉期に処理した

## 4 1か月予報

## 東北地方の1か月予報（7月10日～8月9日までの天候見通し）【気象庁HPより】

・東北太平洋側では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。

